

DP（教育目標）

- DP1 経済、経営、企業、起業、マネジメント、情報などに関する体系的知識と研究方法を習得し、活用することができる。
 DP2 国際的かつ学際的な視野をもって課題を抽出し、実社会との関わりを踏まえて、深く掘り下げ研究することができる。
 DP3 グローバルとローカルの複眼的視点から、戦略と情報を高度に体系化した経営展開力を修得し、高度専門職業人として広く活動することができる。

科目群	科目名	サブタイトル	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	SDGs該当項目
研究 基盤 科目 群	起業マネジメント基礎論Ⅰ		2	必修	修士論文作成のための初年度となる。本講義では大学院における研究の仕方、論文の書き方、論文作成のノウハウ等の指導を行う。本授業では、修士論文作成のための研究方法を説明し小論文作成を通じて論文作成の理解を深めていく。また論文を紹介しながら研究の仕方及び論文作成上のルールを学修する。	○		◎	4,8,9
	起業マネジメント基礎論Ⅱ		2	必修	専門分野に進むための応用編として、1、読書法、文献・統計データの活用手法、2、プレゼンテーション技法、3、学術論文を作成するためのアカデミック・スキルを身につける。本研究科で研究する際に必要不可欠な「知の技法」や「プレゼンテーション技法」「学術論文作成」について事例や発表などを通じて、具体的に学ぶ。	○		◎	4,8,9
	起業マネジメント基礎論Ⅲ		2	必修	大学院で会計・ファイナンスに関する研究を行うために必要な理論や研究方法の基礎を修得する。授業は、13回の授業を大きく2つに区分し2部構成で行われる。第1回から第7回は会計・ファイナンスに関する所定の著書及び論文を読みながら、各種の概念や理論を学修していく。第8回から第13回にかけては、最新の会計・ファイナンスに関する研究テーマに関する研究論文について読破し、その内容理解を前提にグループディスカッションを行う。	◎			8,9
	起業マネジメント基礎論Ⅳ		2	必修	本講義で必要とされる情報理論の基礎から学びを始める。情報量、情報処理とは何かを数学的に定義して理解する。この観点から、計算理論の基礎を理解し、人工知能、機械学習、ディープラーニングなど発展の著しい分野について、現状と発展について考察する。更にデータサイエンスの基礎について学ぶ。カオスと複雑系の観点から、「計算の限界」についても解説する。講義形式で行う。	◎			8,9
起 業 マ ネ ジ メ ン ト 共 通 科 目 群	起業マネジメント研究A		2	選択	1990年代初頭の日本のバブル経済終焉から、インターネットを中心に情報通信技術の革新により、世界経済の多様な動きと地球規模でのグローバルな競争環境が出現した。均一的な世界市場の出現と国境なき経済、経済のグローバル化の進展により、国際ビジネスについての人々の世界観の変容をもたらしたとも言える。本授業では、急速に研究が進む国際経営またはグローバル・ビジネス分野の知見を吸収し、受講生の修士論文作成に寄与するものとする。			◎	8,9
	起業マネジメント研究B		2	選択	多国籍企業に関する理論や実証分析の動向を解説する。事例分析として、90年代以降、積極的に製造業分野を中心に海外事業を展開する日系多国籍企業、及び近年、欧米や発展途上国に先端技術や資源開発、製造分野などに幅広く展開する中国系多国籍企業の動向を考察し、多国籍企業の活動とその経済的影響・成果について議論する。			◎	8,9
	起業マネジメント研究C		2	選択	本講義では、マーケティングの基本的理論をレビューした上で、主要なマーケティング理論が経営戦略にいかに関連してゆくか事例やケースを用いて進める。各講義で取り上げる理論を講義で理解した上で、ケースについてグループ、または個人で取り組み、プレゼンテーションとディスカッションを用いて理論を実践的に展開してゆく。			◎	8,9
	起業マネジメント研究D		2	選択	本講義はマーケティング、特にブランド論、消費者行動論、そしてマーケティング・コミュニケーションを中心に、それらの概要や代表的なフレームワークについて知識と能力の習得に努めていく。 講義はテキストをベースに、毎回各章の報告担当者を決め、報告担当者がレジュメ（報告資料）の作成と報告をする、院生中心で講義を行う。毎回ディスカッションへと発展させられるように指導も行う。			◎	8,9
	起業マネジメント研究E		2	選択	第1回から第6回までの前半部分では、公開会社の財務情報、特に連結貸借対照表・連結損益計算書・連結キャッシュフロー計算書という財務諸表三表から得られる財務情報を読み解き分析する理論と方法を毎回課題を提示し、その課題に簡単なレポートを作成し発表し議論してもらう形で進めていく。第7回から第12回まではファイナンス、特にコーポレート・ファイナンスに関する理論と会計情報との関係について学修していく。			◎	8,9
	起業マネジメント研究F		2	選択	本講義ではコーポレート・ファイナンス、中でも企業価値評価手法を中心に講義する。企業価値評価法には主としてインカム・アプローチとマーケット・アプローチがあるが、双方の概略を学んだうえで実際に企業価値の評価を行う。なお前提知識として簿記論、会計学、経営分析などの知識を持っていることが望ましい。なお本授業はオンライン（同時双方向形式）で行われる。			◎	8,10
	起業マネジメント研究G		2	選択	グローバル化の進展、科学技術の進歩、少子高齢化、財政赤字等、日本経済を取り巻く環境は大きく変化してきている。本講義では、日本経済の過去と未来について概括しその課題と問題点について解説し、論文作成のための基礎的理解を深めていく。			◎	8,11
	起業マネジメント研究H		2	選択	講義は解説および議論によって進める。経済学の知識が各専門領域においてどう応用できるか、学生とともに議論しまとめていきたい。意見のシェアおよびディスカッションのためにパソコンを用いる。伝統的経済理論も引き続き重要であるが、不確実性、情報の非対称性、取引費用、行動経済学といったテーマも扱いながら現代社会を分析する手法を学ぶ。			◎	8,9

起 業 マ ネ ジ メ ン ト 特 講 科 目 群	起業マネジメント特別講義A(経営戦略論)		2	選択	企業の存在意義ともなる経営目標を実現する施策が経営戦略である。経営環境が変化の中で、企業目標をいかに設定し達成するかも大きな課題であり、そのために必要な経営知識を修得していく。経営計画や経営戦術との違いを明らかにしながら、経営戦略のPDCAを検討していく。事例研究を通じて実践的に経営戦略を評価していく。	○	◎		8,9,10
	起業マネジメント特別講義B(経営組織論)		2	選択	人々によって構成される組織の構造に主眼を置く古典派にはじまり、構成員の感情や心理面に目を向けた新古典派と呼ばれる新古典派組織論の二大アプローチを押さえ、その後誕生する実証的かつ量的アプローチによる近代組織論やコンティンジェンシー論、モチベーション理論、オープンシステム論などを学んでいく。	◎	○		8,9,12
	起業マネジメント特別講義C(経営情報論)		2	選択	マーケティングの視点から近年のビジネス環境を理解するため、マーケティングに関わる事項、さらには情報を入手/分析するための知識/技術を身につける。具体的には、技術進化に伴うマーケティングの変化を理解すると共に、実社会で用いられることが多い情報を分析する手法を学ぶ。また、国境を越えたビジネス展開を行うための知識を習得する。	◎	○		8,9,12
	起業マネジメント特別講義D(情報科学論)		2	選択	企業を取り巻く情報通信技術環境の急速な変化を前提とし、どのようにして企業組織が一つの有効な情報システムとして機能し得るのかについて学修していく。それらを実現するための情報科学技術を学ぶ。	◎	○		8,9
	起業マネジメント特別講義E(経営情報システム論)		2	選択	情報技術の発達により、企業は様々な情報を入手可能となっており、企業の競争優位性は情報の量や質、さらには情報を活用するための分析技術に大きく依存するようになってきている。そこで本講義では、近年のビジネス環境をマーケティングの視点から概観すると共に、そこで使われる技術や、国境を越えたビジネス展開を行うための知見を理解、習得することを目標とする。	○	◎		8,9
	起業マネジメント特別講義F(データ分析論)		2	選択	現代産業社会の諸問題を社会科学・人文科学の諸視点から多面的に探求するために、さまざまな現象を如何に情報化するか、いろいろな関連事項を如何にデータ化するか、また、これらの情報やデータを如何に検証・分析するかは重要な課題とされている。この講義において、産業社会の諸問題を研究対象とする大学院学生に科学的な分析手法の基本を教えることを目的とする。	◎	○		8,9,16
	起業マネジメント特別講義G(企業価値評価論)		2	選択	業の財務状況を的確に分析、評価したのち、財務分析の手法により抽出された財務課題の解決について、支援対象企業に対する確かな指導・支援・アドバイスができるスキルを習得する。	○	◎		8,9
	起業マネジメント特別講義H(国際物流論)		2	選択	本講義では、国際物流のしくみとその発展における外航海運、国際航空、越境陸上交通（鉄道、道路）の歴史的、今日的な役割を概観し、資源エネルギー、自動車（完成車）、機械（建機・産業機械）、機械部品（コンテナ）、加工食品や生鮮・冷蔵・冷凍品等の実際の国際的な貨物輸送を通じた実学的国際物流論だけでなく、グローバルサプライチェーンマネジメントへの応用等新しい国際物流論について講義する。	○	◎		8,10
	起業マネジメント特別講義I(流通機構論)		2	選択	生産者から消費者までの流通の仕組み、制度を学んでいく。企業活動が国境を超えてボーダレス化する中で流通のあり方は一國にとどまらず国際的なネットワークの中で構築することが求められる。この授業では、業種を選びその流通機構について考えを深めていく。	○	◎		8,11
	起業マネジメント特別講義J(製品開発論)		2	選択	製品は企業が消費者に提供する便益、Utilityの束であり、製品の提供によって企業は消費者に満足を提供している。この製品を企業がいかに開発していくかが企業の存在理由とも深く関わり重要な企業活動である。本授業では、企業のさまざまな製品開発活動を考察しながら企業のマーケティング活動のあるべき姿を検討していく。	○	◎		8,12
	起業マネジメント特別講義K(財務会計論)		2	選択	財務会計は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を用いて企業の利害関係者に対して経営状態を報告するためのものであり、企業組織の外に向かっておこなわれる報告活動の一つである。この財務会計が益々重要視される現代において、企業の財務諸表から企業活動の課題や将来の方向性を考察していく。	○	◎		8,13
起業マネジメント特別講義L(グローバル経済論)		2	選択	本講義はこの「モノづくり」という視点に重要視を与えて、高度に発達した産業社会の構造と組織、および主要な産業の技術特質を学ぶこと、具体的な産業を通じ、それを動かしている経済とは何か、経済学の固有原理、あるいは産業に関連する経済の法則とは何かを考えさせることを目的とする。	○	◎		8,9	
起業マネジメント特別講義M(経済法)		2	選択	本講座は経済法に限らず、ビジネス実務に関する法務—企業取引の法務、債権の管理と回収、企業財産の管理と法律、企業活動に関する法規制、企業と従業員の関係等のファクターをテキストを使用して系統的に学習していくとする。	○	◎		8,9	
起業マネジメントケーススタディ A	流通業	2	選択	本講義では流通業を取り上げて、現在の業界や取り上げた企業の経営課題を浮き彫りにさせ、その問題解決に向けた方策をグループワーク、発表、討論を通じて学んでいく。この講義を通じて実践的な問題解決力を養うことを目指していく。	◎			8,9,12	

起 業 マ ネ ジ メ ン ト 専 門 科 目 群	起業マネジメントケーススタディB	サービス業	2	選択	本講義ではサービス業を取り上げて、現在の業界や取り上げた企業の経営課題を浮き彫りにさせ、その問題解決に向けた方策をグループワーク、発表、討論を通じて学んでいく。この講義を通じて実践的な問題解決力を養うことを目指していく。	◎			8,9,12
	起業マネジメントケーススタディC	製造業	2	選択	本講義では製造業を取り上げて、現在の業界や取り上げた企業の経営課題を浮き彫りにさせ、その問題解決に向けた方策をグループワーク、発表、討論を通じて学んでいく。この講義を通じて実践的な問題解決力を養うことを目指していく。	◎			8,9,12
起 業 マ ネ ジ メ ン ト 研 究 科	起業マネジメント演習 IA		4	必修	修士論文の作成において、論文題目決定までに十分に話し合いをし、学生の問題意識や関心をもとに、価値ある起業マネジメントの修士論文になるよう指導する。初年度は、研究方法、文献サーベイの方法、事例の見つけ方・分析方法、修士論文の書き方などについても細かく指導し、論文の3～4割程度を完成させて、2年目につなげる。			◎	8,9
	起業マネジメント演習 IIA		4	必修	他の学生の修士論文についても理解し、意見を述べたり疑問を呈したりすることで、自分の論文のレベルアップを図ることが可能であるので、積極的に発言と議論促進に努めてもらいたい。			◎	8,9
【中小企業診断士登録養成課程科目群】									
経 営 診 断 I	経営戦略論 I	経営戦略の形成	2	必修	当講義は中小企業の経営戦略の策定をテーマとし、支援対象企業に対し、的確な指導・支援・アドバイスができるスキルの修得を目標とする。具体的には1) 経営戦略策定のための経営戦略理論を体系的な整理、理解、2) 経営戦略を策定するため、的確かつ必要な分析能力の修得、3) 分析結果を踏まえ、論理的なステップで経営戦略を導けることを到達目標とする。	◎			8,9
	経営戦略論 II	経営計画の策定、計数マネジメント	2	必修	当講義は中小企業の経営戦略策定について財務的要素に重点を置きながら、1) 経営計画(数値計画・実行計画)を策定できるスキルを修得、2) 計画を確実に実行するため、マネジメントサイクル(PDCA)のための仕組みの構築支援や運用支援(進捗管理)ができることを到達目標とする。	◎			8,9
	マーケティング戦略論 I	マーケティング戦略・流通	2	必修	当講義はマーケティング戦略の立案、また立案した戦略を実現するための販売・営業マネジメントについて、支援対象企業に対し、的確な指導・支援・アドバイスができるスキルの習得を目指し、マーケティング戦略の基礎理論の活用を体系的に習得することを到達目標とする。	◎			8,9
	マーケティング戦略論 II		2	必修	当講義は製造業を中心に、マーケティング戦略について一連の流れを学び、企業の経営資源と実態に即した戦略的マーケティング計画を策定し、実施に導くスキルの取得(企業の強み導出、製品開発におけるコンセプト策定、キーポジションの策定、コミュニケーション戦略の策定)を到達目的とする。	◎			8,9
	人材マネジメント論	経営診断の進め方、人材マネジメント計画	2	必修	当講義では中小企業が抱える人材の問題をテーマに、1) 支援企業の組織目標を達成するために、経営戦略・経営目標を理解したうえで人と組織の問題解決の具体策を策定、2) 人と組織の問題解決に向けた人材マネジメントシステムの再構築の策定、3) 人と組織の問題解決に向けた人材マネジメントシステムの重要課題の改善策が提示のスキル習得を到達目標とする。	◎			5,8,9
	財務会計論	経営分析の進め方	2	必修	当講義では、企業を取り巻くさまざまな情報のうち、主に会計情報から読み取れる事柄についての分析力の向上を目指す。代表的な分析指標を用いながら、財務的な課題を発見し、その解決方法について提案できる力を身に付け、適切な助言ができるスキルの修得を到達目標とする。	◎			8,9
	生産マネジメント論 I	工場診断の進め方、現状分析の進め方	2	必修	生産管理により効率を追求する製造業を対象として、その工場診断や現状分析をどのように進めたらよいかをテーマとしている。支援対象の製造企業に対し、的確な指導・支援・アドバイスができるよう次の目標を掲げ、演習を通じてスキルの修得を到達目標とする。	◎			8,9,12
	生産マネジメント論 II	生産戦略の考え方、製造・管理システムの改善	2	必修	モノづくり企業における様々な生産戦略を体系的に理解し、生産形態ごとに異なる管理・改善の手法を把握する。生産マネジメントの問題を解決する製造システムならびに生産管理システムの定石を理解し、演習を通じてモノづくり企業を指導・支援・アドバイスできるスキルの修得を到達目標とする。	◎			8,9,12
	店舗施設マネジメント論	マネジメントの進め方	2	必修	当講義では、適切なコンセプトを作成し、そのコンセプトに基づいた経営目標・経営戦略等の達成を図るため、最終的には理想とする店舗レイアウト等のプランを0から立案し店作りの全体像を学習することによって、支援対象企業の店舗施設についての的確で具体的な指導・支援・アドバイスが出来る技能を修得を到達目標とする。	◎			8,9
経営情報論	情報化支援・流通業・製造業	2	必修	当講義では、企業を取り巻く情報通信技術環境の急速な変化を前提とし、どのようにして企業組織が一つの有効な情報システムとして機能し得るのかについて学習し、情報や組織内外に存在する知識をどのように活用するか、企業の重要課題の解決能力の修得を到達目標とする。			◎	8,9	

	コミュニケーション論	思考法、プロセス	2	必修	当講義では、経営目標の達成を図るため、企業経営における問題発見、問題解決プロセスに参加し、経営者からの信頼感を得た上での確かな指導、援助、アドバイスをできる技能と、経営コンサルタントの思考法の土台となる論理思考を修得すること。またコンサルティング技術の土台となる問題発見、問題解決の技術を修得することを到達目標とする。	◎			8,9
	起業マネジメント基礎論Ⅰ		2	必修	中小企業の国際展開は、大企業に比べてハードルが相当程度に高いものの、展開先や分野を絞れば十分可能になっている。他方、その展開先や分野で不測の事態が生じた場合、大企業に比べて、経営的な打撃がより大きくシビアな選択を迫られることは避け難い。ケース事例を通して的確な指導・支援が出来るスキルを習得する。	◎	○		
	流通業経営診断		2	必修	中小流通業の経営について、現状を把握することにより、経営課題を抽出し、課題解決を目指した実行計画の策定という一連の診断プロセスを学び、実践的な指導・援助・アドバイスが出来るスキルを修得する。	◎	○		8,9,12
	製造業経営診断		2	必修	中小製造業について、外部環境、内部環境を勘案した上で、現状を把握し、経営課題を抽出し、経営課題解決を目指した実行計画、改善提案という一連の診断プロセスを学び、中小製造業の経営形態がどの業種・業態に相当するかなどを見極められる能力実践的な指導・援助・助言が出来るスキルを修得することを、到達目標とする。	◎	○		8,9,12
経営 診断 Ⅱ	総合経営戦略	総合経営戦略	2	必修	経営戦略策定に際し、PEST分析、ファイブフォース分析、SWOT分析等の分析手法のなかからケースに合致した分析手法を選択し、正確な分析を行うことのできるスキルと、分析結果から、企業のコアコンピタンスおよび全社的・本質的な課題を抽出できるスキルの習得を到達目標とする。	◎			8,9
	総合診断	流通業総合、製造業総合	2	必修	全社的な経営診断を踏まえ、経営課題の抽出、経営戦略の立案、課題解決を目指した実行計画の策定という一連の診断プロセスを学ぶことにより、総合的・実践的な指導・援助・アドバイスが出来るスキルを修得を到達目標とする。	◎			8,9
	実務的助言Ⅰ	創業・ベンチャー支援、経営革新支援	2	必修	起業マネジメントの基礎理論を踏まえて、事業の成長段階別の課題想定を修得し、事業の成長段階毎中小企業施策を活用するための支援・助言ができる技能、および創業・ベンチャー期にある企業のビジネスモデル構築、経営資源の確保・充実などにおける成功要因を導き出す技能の修得を到達目標とする。	◎			8,9
	実務的助言Ⅱ	起業再生・企業連携・国際化支援	2	必修	経営革新および企業再生をテーマに、企業のおかれた状況を適切に把握・分析するとともに中小企業施策の活用を視野に入れながら、総合的かつ実践的な提言ができるスキルの習得を目指す。また、経営革新の基礎理論を踏まえて、事業の現状から継続的な発展を図るための経営計画策定支援技能の習得を到達目標とする。	◎			8,9
	起業マネジメント基礎論Ⅱ		2	必修	本講義ではディプロマ・ポリシー2「自分で考えて解決しようとする態度と能力」を達成することを目的に、DXの本質や推進するための手法、進め方、留意点について、より深く学ぶことをテーマとし、DX戦略を企画・推進するための基礎能力を養うことを目指す。	◎			
	経営戦略策定実習Ⅰ	経営戦略策定Ⅰ	2	必修	企業の持続的な成長・発展を支援するため、企業を取り巻く外部環境、内部資源について総合的に分析し、分析の結果として策定された経営戦略課題を解決するための方向と具体策を策定することにより、中小企業の指導・支援・アドバイスが出来るコンサルティングスキルの修得を到達目標とする。	◎	○		8,9,12
	経営戦略策定実習Ⅱ	経営戦略策定Ⅱ	2	必修	診断企業の経営実態を把握した上で、企業を取り巻く経営環境をデータに基づき分析し、戦略面から現状の課題を抽出し、目的や特徴に応じて、適切な戦略フレームワークを選択し、効率的な分析および提案能力や、経営課題を解決するための具体的な経営戦略を立案し、中長期の経営計画の策定能力の修得を到達目標とする。	◎	○		8,9,12
	経営総合ソリューション実習	経営総合ソリューション実習	2	必修	経営目標を達成するために、企業が抱える課題・問題点を発掘・整理し、課題解決の優先順位を勘案しながら、重点経営課題の策定し、具体的な解決策を提案することにより、中小企業の経営課題に対し、指導・支援・助言できるコンサルティングスキルの修得を到達目標とする。	◎	○		8,9,12
起業 マ ネ ジ メ ン ト 研 究 科 目 群	起業マネジメント演習(専門テーマ研究)ⅠB		2	必修	登録養成課程の決められた科目だけでなく、各自の興味のあるテーマについて、より深く学ぶために開講される。 1) 各自の興味あるテーマに関するより深い知識取得と理解、2) コンサルタントとして自立していく際の得意な分野の知識の蓄積により修士論文作成の基本的プロセスとして位置付ける。	○	◎		
	起業マネジメント演習(専門テーマ研究)ⅡB		2	必修	登録養成課程の決められた科目だけでなく、各自の興味のあるテーマについて、より深く学ぶために開講される。 1) 各自の興味あるテーマに関するより深い知識取得と理解、2) コンサルタントとして自立していく際の得意な分野の知識の蓄積により学位に値する修士論文を作成を到達目標とする。	○	◎		
	要求仕様特論		2	選択	IT戦略から企画、導入プロセスにおける要求の整理手法・要件のまとめ方を学び、ビジネスプロセス・マネジメントの観点から業務の見える化を実施でき、イノベーション活動の全体像を理解し、実現プロセスの概要を理解することを到達目標とする。	◎			8,9

経営 診断 選択 科目	ITCプロセスガイドライン		2	選択	IT経営推進プロセスガイドライン(Ver3.1)で取り上げている、戦略経営サイクルや経営推進プロセスは、中小企業に対するIT経営のためのフレームワークであり、これらをIT経営の現場で活用するための考え方を解説し、実践的な演習を通じて、IT経営を推進する上で必要なスキルの修得を目指す。	◎			8,9
	ケーススタディⅠ		2	選択	経営理念、経営方針およびビジョンを実現するため、現状の経営環境（外部、内部）を分析し、経営戦略を打ち立てる手順と手法を学ぶ。同時に、ITコーディネータ（ITC）としての立場から、経営者・現場の従業員・お客様の立場や意見などを考慮し、どのように皆の思いをコーディネートするかについてもケースを通じて体感学習する。	◎	○		8,9
	ケーススタディⅡ		2	選択	IT経営実現領域の経営戦略(の一部)、業務改革およびIT戦略プロセスについて、講義と演習を通じて実践力を修得することを狙いとする。ITコーディネータとしての立場で、経営者・従業員・お客様・取引先など、様々なステイクホルダーとの関わり方や考え方について理解し、それぞれのフェーズにおけるドキュメント作成手法の修得を到達目標とする。	◎	○		8,9
	ケーススタディⅢ		2	選択	IT戦略策定フェーズで策定した戦略を実現するため、策定されたIT化計画に基づき、ベンダーの調達、IT導入および活用手順と手法を学ぶ。 IT経営実現プロセスのIT資源調達フェーズ、IT導入フェーズ、ITサービス活用フェーズについて、講義と演習を通じて実践力を修得することを到達目標とする。	◎	○		8,9

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」